

〔第165回、第167回明専塾〕

10周年記念明専塾・祝賀会

明専会副会長 石橋 一郎 (制56)



〔明専塾とは〕

2008年12月8日に第1回明専塾が開かれて以来、2018年12月でちょうど10周年となりました。12月7日(金)の戸畑での第165回明専塾(安川電機グループ)と、10日(月)の飯塚での第167回明専塾(グローバルに活躍する情報工学部OB)が10周年記念ということになり、懇親会も「祝賀会」と銘打ち、両キャンパスで学長・副学長も参加するイベントとして開催されました。

私は、前者には安川電機側の窓口担当者として、後者には明専会副会長として両イベントに参加致しましたので、本記事の執筆を依頼された次第です。

明専塾とは、母校百周年記念として企業の社員である明専会員が学生に対して講演し、直接学生達と懇談をする機会も設けることで明専会もキャリア教育の一環として大学に協力していこうというもので、明専会高原会長(当時は副会長)が提案されたものでした。その第1回は明治専門学校の子の親でもある安川電機が依頼を受けて開催したのでした。手探り状態で始まった明専塾も、だんだんスタイルが確立してきて多くの企業(行政機関・公的団体含む)から実施希望が出るようになり、最近には年に20回程度開催されるようになり、戸畑では希望しても日程の都合で開催できない企業も出るくらい盛況となっています。文部科学省からも、同窓会と連携した他大学に見られないキャリア教育活動として高い評価を受けています。他が真似でき

ない理由は、次の2点だと思っています。

①卒業生(その所属企業)のボランティアであること。講師の旅費などは大学・明専会も支出しません。

②懇親会費は明専会が負担していること。企業にとっては学生を接待するわけではないので、コンプライアンス上好都合です。大学側も費用は発生しません。

つまり、学生・卒業生・卒業生所属企業・大学・大学の先生のそれぞれにとつてWin-Win-Win-Win-Winの関係になっているのです。

〔今回の明専塾の報告〕

■戸畑

10周年記念ということで、安川電機の小笠原浩社長(情54)に最初に挨拶いただきましたが、いきなり「私は大学へは5年通った」という話から切り出され、学生もびっくりしていたようです。テストの成績よりもチャレンジ精神が大事だということをお伝えしたかったものと思います。続いて、坂本雅宏氏(制63)からロボット事業、出光利明氏(電56)からモータづくりの歴史、松浦勝彦氏(子60)から安川コントロール(株)と

(株)ベスタクト・ソリューションズの紹介(リードリレー「ベスタクト」の実物回覧含む)、箱田貴久氏(情知H5)から、安川情報システム(株)(変更予定の新社名YEデジタル)の技術の紹介(実際に客先で使用されているAIシステムなど)が紹介されました。参加されていた先生方も興味深く聴講されていました。複数の入社数年目の九州工大卒の若手社員からの学生へのメッセージ紹介なども取り込み、学生と講師の年齢差を補いました。



安川電機 小笠原社長のご挨拶

しばらくすると、祝辞をいただいた3人の方々による、ケーキカット式も行われたのにはびっくり致しました。準備されていた明専会事務



戸畑の明専塾10周年記念祝賀会

祝賀会では、花本剛士（電59）生命体工学研究科長の司会で、尾家学長、中島喜満（金43）明専会副会長（高原会長が急遽出席できなくなつたため代理）、吉田一昭（子54）ベスタクト・ソリューションズ社長からの祝辞のあと、赤星副学長のご発声での乾杯となりました。高見門司支部長や尾仲理事も参加されており、和気あいあいの祝賀会となりました。

海外で活躍中の二人のOBによるちよつと変わった形式の明専塾となりました。お二人とはシリコンバレーのソフトウェア会社 LEANPLUM の米田匡克氏（情知H3）と大塚製薬の崎山基行氏（情生H10）です。「どこかで聞いたようなお名前」と思い出されたかもしれませんが、明専会報874号の「九州工大のグローバル・コンピテンシー特集」で投稿されましたが、講演でも、自分は自分の

局・スタッフの皆様には感謝致します。



吉田社長、尾家学長、中島明専会副会長によるケーキカット



飯塚の明専塾の様子

実力で会社立ち上げに参加したり、会社を渡り歩けるような、英語を駆使してグローバルに活躍できる人間を目指してきた、という講演でした。そのバイタリティーには驚きました。学生に対しても「自分の会社に来てほしい」というPRはなく、後で聞いたのですが、「やはり新卒では会社の要求を満たせず、実力の付いた技術者の中途採用をしていく」とのことでした。一般に明専塾は、先輩が後輩に自社へ入社するように自社の良い点をPRするわけですが、片峯恵一（情機H4）准教授・明専会理事の弁によれば、米田氏の講演が明専塾の原点かも、とのこと。大塚製薬の崎山氏は、タイ大塚製



崎山氏、石橋、梶原学部長、米田氏によるケーキカット

薬の社長の任期を終えて、次のインドへの赴任のために日本に一時的に滞在している時間を縫つての講演でしたが、こちらはしっかりと大塚製薬のPRもされており、少し安心致しました。

飯塚の明専塾の司会進行をされたのは本田あい准教授（情知H3）でしたが、米田氏と同期ということもあり、多くの学生達にお声をかけていただき、学生の参加者は、いつもの飯塚での明専塾の倍近くになったようです。祝賀会も戸畑と同様なスタイルで行われ、ケーキカット式も同様に実施され、同窓の絆で盛り上がりました。

（株安川電機）